

小金井市玉川上水・小金井桜整備活用推進委員会の視察結果について

実施日：平成30年4月6日（金）

時間：午前10：00から午前11：30まで

内容：平成29年度補植サクラの生育状況の確認。
平成30年度以降のサクラ補植地及び伐採を要する樹木の確認
サクラ並木再生に要する適切な補植本数

参加者：亀山 章（東京農工大学名誉教授）
椎名 豊勝（一般社団法人日本樹木医会会長）
伊藤 孝（日本大学名誉教授）
小金井市（生涯学習課2名、道路管理課2名、環境政策課2名、管理業者1名）

結果：（平成29年度実施事業）

- 平成29年度に補植したサクラ苗木15本は、花が付いたことを確認できた。
- 全体的に成育状況が不良であった。原因として、植樹時期が3月下旬と遅かった事、植樹後における水不足が考えられる。2月中旬までには植樹する事が望ましい。
- 補植したサクラ周囲の環境は、一定樹木が伐採されて日当たりや風通しが改善されたが、依然、影響を及ぼす樹木が残る。

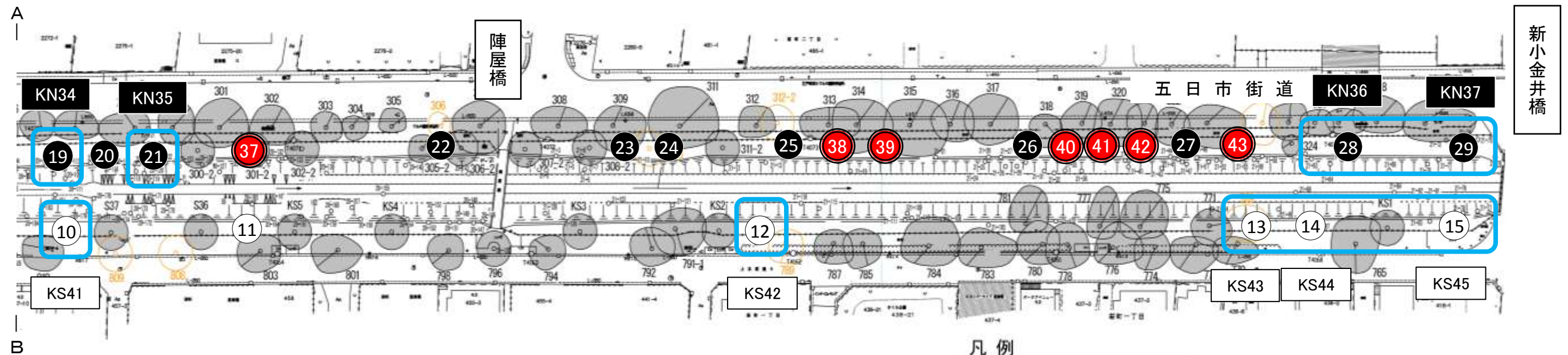
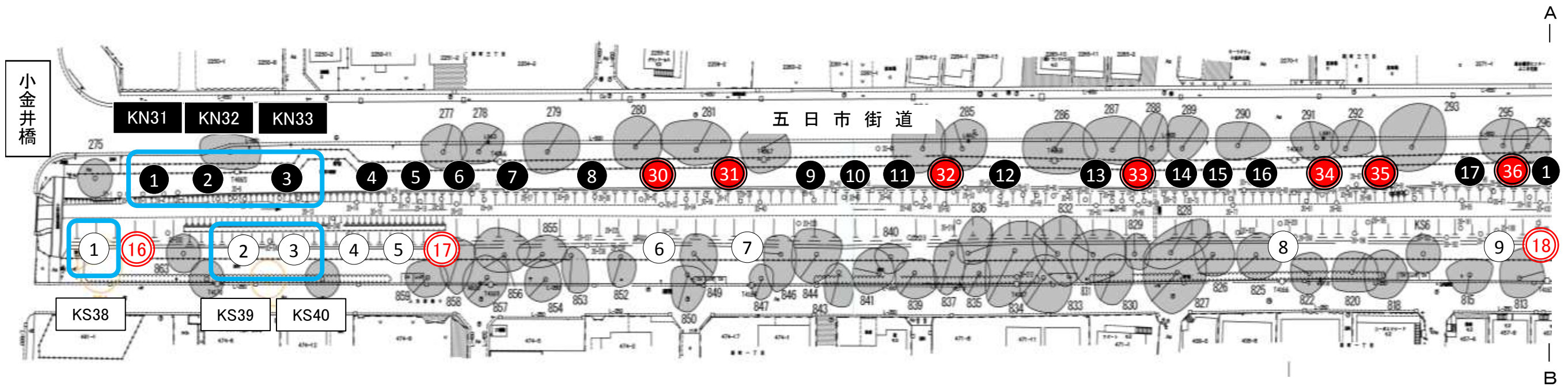
（指導事項）



- 既存のサクラを被圧する樹木が大きく成長・増加し、サクラの樹形変形の要因となっている。
- 補植を予定しているサクラを保護していく方策として、サクラから周辺5m範囲内に繁茂する中・高木又は今後影響を与える恐れのある樹木等は伐採することが求められる。また、既存のサクラに対しても同様の保護措置を講じてほしい。
- ツツジは、サクラに影響を及ぼす事はないが、整形のために上部枝の一定の剪定作業は必要である。下部については高さ50cm程度の枝を対象に剪定する。
- 乾燥時期が続くと水不足でサクラは弱る。特に、補植直後のサクラ苗木の生長が弱いため、年間を通じて水遣りを徹底すること。
- サクラ並木の再生について、欠損木に対する補植及び枯死が見込まれるサクラの後継のためには、小金井橋～新小金井橋区間で新たに17本の追加補植が必要である。


（その他）

- 平成22～24年度モデル区間における、サクラ植樹のために伐採した雑木の萌芽更新が早く、すでに大きく育ち再度繁茂している。史跡及び名勝の管理上好ましいものではなく、モデル区間事業の意義が低下する。植樹したサクラが立派に生長するまでの期間中は、2・3年に一度のペースで雑木剪定・伐採を徹底すること。

玉川上水小金井橋～新小金井橋区間 補植箇所位置図





 追加補植箇所
 (合計17本)


 平成29年度補植箇所

凡例

名称	記号
小金井サクラ	